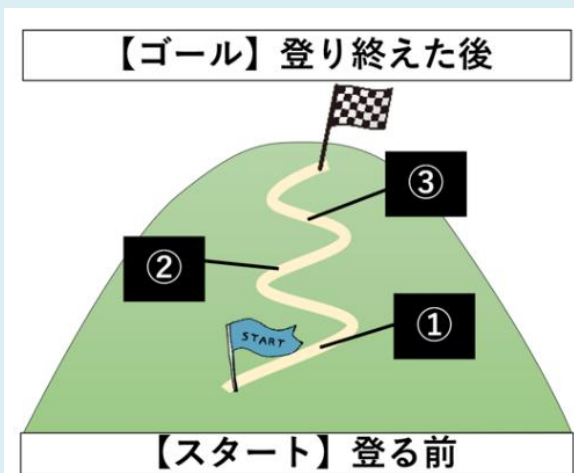


山頂（ゴールの姿）を意識した「主体的な学び」を目指す実践

県教育委員会では、児童生徒の学力向上に向けた取組の一つとして、「分かりやすい授業の実践」を掲げています。今回は、佐賀県内で特徴的な校内研修の取組を行っている浜玉中学校の丹野校長先生と平方研究主任にインタビューをしてきましたので、その内容を御報告します。

浜玉中学校の取組の内容



◆「ラーニング・マウンテン」の考え方を 基にした指導計画の作成

- 単元の最終ゴールを山頂に見立て、スタート（学ぶ前）からゴール（学んだ後）にたどり着くために必要な学びを山頂に向かう山道に計画的に配置していく。
- 1 単位時間の授業ごとや単元ごとに作成する。
- 学習指導案の代わりとしても活用する。
- 生徒のワークシートとして活用する。

◆ 「単元テスト」の実施

- 5 教科（国語・数学・社会・理科・英語）において、単元が終わるごとにテストを実施する。
- 単元の学びが終わった時点でテストを行い、短いスパンで評価結果を指導改善に生かす。
- 生徒は「ラーニング・マウンテン」で見通せたゴールを意識し、学びを主体的に行うことができる。

「ゴール」を見据えた学びの充実



【丹野校長先生】



【平方研究主任】

丹野校長先生・平方研究主任へインタビュー

Q1 学力向上を意識して、どのような取組をされていますか。

A1 唐津市教育委員会からの研究指定を受け、指導計画に当たる「ラーニング・マウンテン」を作成し、生徒にも配付することで、**教師と生徒が見通しをもって、学ぶことができる**ようにしています。

Q2 どのような成果が出ていますか。

A2 今後の学びの見通しをもつことができているため、生徒の中には、**自主的に先に予定している内容を授業中や家庭学習において学んでいる子**がいます。また、本校が取り組んでいる**「単元テスト」の実施により、評価・評定が向上している**ことも成果の一つです。

Q3 先生方にとってはどうでしょうか。

A3 「ラーニング・マウンテン」を作成することで、**単元や本時のゴール（身に付けさせたい力）を意識した指導**ができてきました。これまで以上に、目の前の1 単位時間の位置付けが明確になっています。

常々言っているのが、**作成はあくまでも手段である**ということ。作成を通して、生徒に付けたい力を意識する、1 単位時間相互の関連を意識することが大切です。

浜玉中学校が取り組むラーニング・マウンテン（L・M）



【L・Mの作成を通して、単元をイメージする教師】



【L・Mを見ながら学ぶ生徒】

単元名：根拠を吟味して意見文を書こう「地図の意見文」

☆自分の「単元の目標」

☆自分の学習の振り返り

④意見文を書き、読み合う（2）

③お互いの根拠を吟味し合う（1）

②自分の立場を決め、根拠を考え吟味する（3）

①単元の流れを理解し、自分の単元の目標を立てる

つけたい力

- 意見と根拠など、情報と情報との関係の理解
- 根拠の適切さを考える
- 説得力を増すために、説明や具体例を加える

本時

私は A ショッピングモール B スポーツセンター の中に新設するだと思ふ。

「生徒用ワークシート」にもなる L・M（国語）

- ・単元の最後に「つけたい力（赤枠）」、そしてそれを踏まえた「自分の具体的な単元の目標」「毎時間の振り返り」「単元の学びの振り返り」を記載できるようにしている。

11/2 2-3 5時間目 学習ポートフォリオ 自立に必要な食を営む力をつけよう 3集：調理のための食品の選択と購入 教科書44〜

名前 教員 橋本 長子

めあて 自分の考えをもち、食品を適切に選択できるようになろう

学習の見直し

1 食品を選ぶ時のポイントを確認する

2 発表し、クラスで共有する

3 各組の発表を聞き、食品を選ぶ時のポイントを再確認する

4 これまでの学習を振り返って生活に活かせることをまとめる

現在

- 栄養バランスを考えた1日分の献立を立てた
- 食品を選ぶ時のポイントを学んだ
- 生鮮食品の特徴を踏まえ、表示の読み取り方を学んだ
- 加工食品の特徴を踏まえ、表示やマークの読み取り方を学んだ
- 食品の適切で安全な扱い方を学んだ

評価	わかること・できること	考えること・表すこと	工夫して字ぼうとすること
	食品を選択する時のポイントをおさながら、食品ごとにメリット・デメリットをあげることができる	デメリットに関しては解決策を考え、論理的に説明できる	班で協力しながら意見を出し、友達に伝えたり、自分の言葉でまとめることができる

家庭科の L・M

- ・現在の生徒の学びの状況と単元の学びで目指す学びの姿をそれぞれ記載している。
- ・3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）ごとの評価規準、そしてそれらを単元のどこで評価するのか記載している。生徒に配付、共有する。

浜玉中学校の取組については、直接学校までお問合せください。

今回のインタビュー内容はいかがでしたか。「もっと浜玉中学校の取組を知りたい！」と思われた場合は、丹野校長先生に直接お尋ねください。

TEL (0955-56-6650) mail アドレス (tanno-itaru@education.saga.jp)